

第1章 ユダヤ人問題を考える（その1）

【研究ノート】

「失われたハザール人」という呪縛

～ロシア・ソヴィエト・イスラエルをつなぐ糸がもたらす衝撃～

（担当執筆 CEO 原田 武夫）

1. はじめに

ウクライナ勢における「内戦」が本稿の執筆段階（2014年7月末）においてもなお未だ続いている。この紛争においてまず“悪者”となったのはロシア勢を率いるプーチン大統領であったが、その後の動きからそうした「他国をも蹂躪する独裁者プーチン」というイメージが描き出すほど物事は決して単純ではないことが露呈し始めた。なぜならばウクライナ勢において新たに政権を樹立させた勢力こそ「暴力的」であり、かつ「狂信的なほどの愛国者」であることが明らかになり始めているからだ。

そうした状況の中、「なぜ今、ウクライナ勢における内紛なのか？」という疑問が国際社会において徐々に渦巻き始めている。なぜならばそもそもこの国における内紛の発生の仕方が唐突であったのみならず、その後の推移が表面的に見るとあたかも国民国家の中における出来事であるように思えるものの、他方でそうした既成の枠の中には収まりきらないことも確かであるからだ。

sample